



講座のアピールポイント

獨協医科大学リハビリテーション科は昭和 49 年 4 月に我が国初のリハビリテーション医学の講座として誕生しました。

設立以来 40 数余年の長きにわたり、疾病中心ではなく、全人的医療の精神に基づき、ノーマライゼーションの理念の実現に向け、リハビリテーション医学一般について総合的に診療、研究を行っています。

臨床面では大学附属病院の特色を生かした、各種疾患に対する超急性期からのリハビリテーション医療に積極的に関与し、また生活期(慢性期)には医療相談部と連携した地域、在宅、社会復帰援助に取り組んでいます。

リハビリテーション医学分野を中心として、他診療科、他施設と連携した学際的な共同研究に力を入れています。

講座研究紹介

リハビリテーション医学自体の特徴から、当講座の研究内容は多岐にわたっています。主にヒトを対象とした研究が主体となりますが、最近では動物実験による研究も行っています。

1. リハビリテーション訓練を行うときの筋活動について MRI を用いてその活動を判定評価
2. 脳卒中患者のリハビリテーション治療と栄養状態と機能回復、ADL、QOL との関係
3. 磁気刺激や電気刺激に代表される非侵襲的脳刺激とリハビリテーション訓練を併用した障害機能回復過程
4. 急性期人工呼吸器管理を行った心臓大血管術後患者の嚥下機能の回復予後
5. マウスを用いたオキシトシンと廃用性筋萎縮との関係